

1. 件名：「日本原子力研究開発機構原子力科学研究所との原子力規制検査に関する意見交換」に関する面談

2. 日時：令和2年10月29日（木）16時00分～16時40分

3. 場所：

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所 会議室

4. 出席者

(1) 原子力規制庁

原子力規制部 検査グループ 核燃料施設等監視部門

門野安全規制管理官、栗崎企画調査官、伊藤企画調査官

原子力規制部 検査グループ 専門検査部門

滝吉企画調査官

原子力規制部 東海・大洗原子力規制事務所

橋野統括原子力運転検査官

(2) 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

原子力科学研究所 所長 他5名

5. 要旨

(1) 原子力規制検査の制度が開始して半年程度経過しており、設置者等の安全活動に係る取組み状況や検査制度に関する意見などを聴取するため、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）原子力科学研究所において、面談を実施した。

原子力規制庁からは、以下の点について質問をした。

- ・原子力科学研究所における原子力安全の取組みの状況
- ・原子力安全に係るコミュニケーション、資源確保の状況
- ・原子力規制検査制度に対する意見など

(2) JAEAからは、以下のような説明があった。

・当研究所は、発足以来約60年原子力に関する研究活動拠点として、安全を確保しつつ、成果を数多く出してきたが、原子力施設については高経年化が進み、廃止するにしても放射性廃棄物が出るため、成果を出しつつも合理的かつ安全に処理処分を進める必要がある。

・これらの活動に際しては、職員の力量を上げつつ、当研究所を一つのチームとしてビジョンを掲げ、安全を優先に一体感を持ちながら進めていく必要があるものと認識している。

・コミュニケーションに関しては、保安規定における保全活動上の事項に加えて、所長による月2回の現場確認を行い、職員等との対話を行うことで、上述した一体感

を醸成しているところ。

- ・新検査制度への対応として、原子力施設検査準備室を設置し、検査の独立性を確保している。新たなリソースが必要となるが、リスクの大きな箇所に注力できるなど効率的な実施を目指し、結果として負担が減れば有効であると考えている。
- ・グレーデッドアプローチの考え方については、手を抜くという事ではなく、リソースをより注力すべき所に投入することで、安全を合理的に高めるために用いるものと理解しており、安全確保を前提の上でメリハリをつけて、より良好なパフォーマンスを得られるように取り組んでいく。

(3) 原子力規制庁から、引き続き原子力安全の確保と新検査制度への協力を求めるとともに、原子力規制検査に関する意見交換会の場を通じて意思疎通を図っていきたい旨を説明した。

6. 配付資料

なし

以上